



先生の言葉に耳を傾け真剣な表情で授業に取り組んでいる轟木小学校の児童



木下志き子議員

教育行政

教育の中で特に力を入れていきたい分野は

次代を担う子どもたちの学校教育向上に全力

質問 岩船新教育長は、町の教育をより良くするために、現時点で特に力を入れていきたいと思う分野は何か。

岩船教育長 本町の幼児お

よび学校教育、地域社会における芸術・文化・スポーツなど、市民の生涯にわたる学習環境は、年々整備されているととらえている。

このことから、教育長として、教育行政すべての分野でさらなる充実を目指すことはもちろん、特に次代を担う子どもたちの学校教育の向上に力を入れていきたい。

具体的には、学校長を通して、学校・家庭・地域社会と連携しながら、子どもたちの「早寝・早起き・朝ごはん」の励行に取り組みたい。

また、授業力・指導力の向上を図り、より一層、一人一人の子どもに気配りできる教職員を育てていきたい。こういったことが、子どもの確かな成長につながるものと考えている。

質問 学校給食についてアンケートをとった結果は、

岩船教育長 調査対象は、給食を実施している大浦小学校と中学校3年生を除いて実施した。対象1629人のうち、回答は1387人(85%)で、未回答が242人だった。設問の「弁当配達方式による給食の利用」については、回答1387人中「利用したい」と答えたのは828人(60%)で、「利用しない」と答えたのは437人(32%)、「その他」122人(8%)という結果であった。

質問 教育委員会では、ランチボックス制度について地区懇談会を行ったか。

また、実施に向けた業者選定や実施予定期日は、**菊地教育長** 地区懇談会は特に実施していない。ランチボックス制度を実施する際の業者選定については、基本的には地元業者にお願いでできればと思っている。実施予定期日については、早くとも21年度の2学期以降となる。

議員6人が一般質問